

## ジュニアリーダーセミナーへの参加理由について

○橋本 和秀(余暇問題研究所) 山崎 律子(余暇問題研究所)

キーワード： ジュニアリーダーセミナー、青少年

### 1. はじめに

各自治体あるいは教育委員会においては、従来から青少年の健全育成を目的としてジュニアリーダーセミナーが実施されている。このジュニアリーダーセミナーに関わりがあるので、まず本報告の対象としてのジュニアリーダーセミナーの概要を説明することにしたい。このセミナーの対象となっているのは、当該地域在住の中学生および高校生である。これら中・高校生がセミナーを通して、野外活動や集団生活体験など異年齢との交流を図りながら、望ましい人間関係の構築や仲間との協力、リーダーシップやコミュニケーションの知識・技術・態度を学び、自らが考える力をつけることを目的としている。また来年度より実施がされる学校5日制により予想される青少年の余暇時間の増大に伴ない、ジュニアリーダーが地域活動などで活発に活動できるようになることを身につけることも目的に加えられている。

しかしながら、こうした事業への参加は必ずしも盛況というわけではない。例えば直接今回の報告の対象となった〇区では、2000年度より中学生および高校生の合同でのセミナー開催となっている。

一方国レベルにおいても、非行等問題行動など青少年をめぐる問題の背景の中に、子供に対する基本的なしつけの欠如や人間関係の稀薄さが、一般に大きく取り上げられており、平成11年7月の青少年問題審議会では、21世紀の青少年行政の方向性として地域コミュニティを基盤として青少年が多様な人間関係などを経験できる環境を整備し、一体感をもった地域主導の総合的な取り組みをするとも答申している。

以上のように自治体行政や国レベル行政では、いわば理想的な目的を掲げているが、しかしながら、現実では減少傾向にあるジュニアリーダーセミナーにおいて、いかに減少を歯止めするか、いかに増加への道を開くかが、担当者および指導者にとって急務の課題である。そこで、参加する中学生や高校生がどのような理由で、且つ何を望んで参加するのかを増減の所要因の1つとして確実に把握することが極めて重要であると考えに至った。参加理由については、対象者の一般傾向は念頭にあったが、あくまでもマクロ的であり、個々の対象者について確実性はなかった。これらを把握する方法については、現実の場を利用し、セミナー開催期間中に参加者を観察し、話し合いを行なって、参考資料として一応アンケートをとることによって大勢を把握することが、現実に即していると考えた。

### 2. 報告の目的

本研究の目的は、ジュニアリーダーセミナーに参加する中学生および高校生の参加理由についての把握である。あわせて参加理由からの指導の方向を検討することである。

### 3. 方法

- ・対象者：東京都〇区教育委員会主催、中学・高校生対象ジュニアリーダーセミナーの参加中・高校生者男女36名
- ・期間：2001年8月
- ・方法：観察、話し合い、質問紙による集合回答法(参考資料)

- ・分析方法：分析に当たってまず初参加者とリピーターに区分した。またリピーターについては参加回数も考慮した。

#### 4. 結果

以下の結果が得られた。

- 放課後の活動………参加者の約60%はセミナー以外でも活動をしている。活動の種類は、地域の子ども会活動を筆頭に続いて学校課外クラブ活動、僅かではあるが児童館での手伝いがあった。
- 参加の契機………初参加者、リピーターともに区報、各施設に置かれるチラシ・ポスター類によって参加したものが大半を占める。また初参加者は地域の方のすすめが2割程度見られた。リピーターも親からのすすめが次いで多かった。
- 参加の理由………初参加者は「学校以外の人と知り合える」と思うものが約1/3を占め、「さまざまなことに挑戦したい」と思うものが約1/3であった。リピーターでは「自分のためになるから」が半数近くにのぼり、ほかに比較的多かったのは「セミナーの活動内容が面白い」、「学校以外の人と知り合える」と思う者がいた。
- セミナーへの期待…全体では「多くの活動を経験したい」「友人を得る」との期待が圧倒的に多かった。続いて多かった事項は「ゲームや歌をもっと覚えたい」「楽しみの場を求めて」などであった。初参加者では「経験」「友人」「協力」「体力向上」がキーワードであった。リピーター（1～2回参加）は「友人」「楽しみ」「企画」「リーダーシップ」が多く、リピーター（3～4回）は「リーダーシップ」「経験」「友人」「協力」「人との会話」が挙げられた。5回以上のリピーターは「楽しみ」「キャンプ技術の習得」「自信をつけたい」などが多かった。

#### 5. 考察とまとめ

以上の結果は、参加理由と期待がセミナー参加の回数によることが明白になった。すなわち、初参加者は“友人志向”が強く、回数を重ねるごとに、友人志向から“経験志向”や“リーダーシップ志向”へと移行する傾向がみられる。しかし“友人志向”は「大人ではないが子供でもない不安定な気持ちから、自分を理解し、自分の不安や緊張を和らげてくれる相手を求めていく」とする説（吉田他、現代青年の意識と行動 p 103、NHKブックス、1981）に合致し、青年の特徴を如実に表しているものといえよう。しかしながら参加者の大半は、その参加理由は、私的生活領域の関心のみに止まっている。このことは青年の一般的特徴とともに現代青年の特徴（いわゆるミーイズム）を表している。

今後のジュニアリーダーセミナーの指導に当たっては、以上の知見をもとに、より深く研究を重ねていきたい。